

話を申しました、其の重い所の責任を有つて居らる、皆さんはよく身を牽制し、肉体を牽制して能く其の主義を全ふせらるゝを望みます。そして其の主義を全ふし、地位を完ふすることは果して如何にあるかと云ふことを御承知を望みたい、悲嘆の來り惱みの來る時、力を與ふるは天の神であることを御承知せられんことを願ひます。



花のかたみ(承前)

雜

録

や、て、

黄泉の使愈々せまりて參り身もなかくに苦しく相成申候、最後の思出に心のまゝを申し殘さんものと覺悟致候へ共今は其の十が一だも述ぶるの勇氣無之候、さりとて此の儘に永く眠らんも殘念の極に候へば息のつかん限りを……………

其三 元來何れの國とは申さず戦に捷利を得候國民は一般に奢侈贅澤に流れやすく其の結果は遂

に其の氣風さへ柔弱と相成り申候事は古來の歴史が重ね、明らかに語る處に候、我國も清國との戰爭後此の弊に陥りしにわらずやと御見受け申すふし多々有之候、勿論社會の進むと共に皆様の御生活の程度も御變はりあるべきは必定に候へ共さりとて今の御有様は決して宜しきを得たるものとは思はれず候、且つや清國には見事勝利を得候へ共尙眼前に幾層か大なる強國の控へたる今日なれば勤儉質素の風習の御養成は尤も緊要の御事と存せられ候。

其四、故福澤先生のしきりに御説き遊ばされ候事なるが皆様には所謂獨立の思想とやらが薄き様に思はれ申候、一方には最早充分御成人遊ばされたる御子様達にして尙御両親に御依頼遊ばさるゝあれば、他方にはまだ左程御老体にもあらぬ御親

達様が早くも御隠居遊ばされて萬事を御子様達に御まかせなさるゝ風に相見へ申候殊に婦人の御方に此の事多き様に感じ申候、此の風は遠き西の國のそれと大に相違せる様承り居候、勿論親子朋友知己などの御間柄に於て互に頼み助け合ひなさるゝ事の厚さは此上もなき我國の美風には候へ共他面には獨立心の乏しきを示せる事と思はれしは如何にや、弱肉強食とやら適者生存とやら申して生活競争のはげしき今日にありては此等の點よく御考へ遊ばされん事切に御祈申上候。

其五、唐の古き詞に龍頭蛇尾とやら申す事あり候がこは誠に我が國人の心の狀をよく云ひわらはしたる詞と存じ居候、由來皆様には西國の人はちがひ縷りて敏捷伶俐と云ふ美はしき御氣質をもたせらるゝと共に勢ひ輕佻に流れ情に激しやす

く事にわたる忍耐持久の念に乏しき事も事實に候
 爲めに動もすればひたすらに流行を追ひ萬事繼續
 の風稀に候、我が國が御一新後僅々三四十年の間
 に今日の隆盛を致し候は主として此の敏捷の氣質
 に依る所に候へ共長所は即ち短所にて將來皆様を
 益發達の氣運に參らしひるも此の氣質なるが之
 と同時に益衰弱の方に導くものも之に伴ふ輕俳
 の風に候、よく御注意なさるべき事に候、之
 を家庭の御教育に考へ候に御子様達の玩具衣服を
 屢々取替へなさる事よろしからず候、御住居の時
 や御移りなさるも同様に候、尙御子供の激し候時
 には成るべく冷淡に御取なしなさるゝ方よろしか
 らんと思はれ申候

其六 猶も皆様が世界列國競争場の槍舞臺に御
 立ち遊ばされゝて後れを取らぬ様になさらんとに

六十一
 は此他幾多の御覺悟御緊要の御事と存候へ共、時
 迫まれる今はの際最早や精も續かず相成申候まゝ
 止むなく只題目のみを述べ申へ候。
 共同的思想に乏しき事に候從つて反目敵視の有
 様となり一致する事少なく候。
 公共の利益を犠牲にして幾分の口腹を満たさん
 とする人有之候。
 萬事一定の秩序なく亂雜に處する傾有之候。
 時間の價値を眞にさとられず候時 即 金に候も
 のを………

花のかたみは實に以上の如し、終りをも結ぶ
 餘命なくて去りぬ、虎は死して皮を残し、花
 散つて此の遺言あり、人去つてそも何の残と
 す所かある。

讀書餘錄

擊

水

一、フロレンツの獅子

「ハインリツヒ、ベルンハルヂ」の「フロレンツ」の獅子と題する一小詩篇は、驚くべき母の慈愛の力を唱ひたるものなり。

伊太利のフロレンツ市といへるは、美麗繁華の都會として、其名古より高き所なるが、この都會に一個の動物園ありて、盛に珍禽奇獸を飼養して日々市民の縦覽に供せしが中に、最も市民の注意を惹きたるは一匹の大獅子なりけり。勇猛にして氣高き其姿、金眸霜牙、威風凜々、鐵檻の中に在りて尙絶えず東西に馳駢し南北に跳躍し、時に怒つて一度嘯く時は、さしも堅固の牢檻爲めに震動して聲あり、草木風なくして自ら委れ、百獸尾を捲

き聲を潜め頭を垂れて悉く雌伏す、げに獸界の主たる趣には、觀る者驚歎して已む能はず、動物園の獸王は正に是れ、フロレンツ市好個の呼び物となりたりけり。

併も一日、驚くべき警報は電の如くに全市を通じて人心を驚殺したり。曰く「危険！危険！獅子は檻を破つて遁げたり、逃げよ避けよ誤つて獅子の餌食たる勿れ」。老若男女右往左往に走せ違ひ逃げ惑ひて、あはれ修羅の巷もかくやと思はれしか、それもたゞ一時の間にて、今や市民は皆家中に隠れて堅く門戸を鎖して復た出でずたい窓戸を通して街路を窺ひ見るのみ。さしも繁華比類なきフロレンツ市に復た一人の影もなく、満都の光景忽ち寂漠々として轉た悽愴を極めたり。

たい見る、可憐なる一人の幼兒の、目前に迫り來

此大危難を知るに由なく、慈母の手を離れ來りて、獨り市場の井邊に座して餘念もなく戯れ遊べるあり。嗚呼何たる悲惨ぞ、何たる絶望の極ぞ、戸口の窓より觀望したる市民等は、既に死の手の幼兒に達せんとするを見て、空しく救を顧みこれかれ等痛歎するのみ誰あつて、一身を捧げて此可憐兒を奪はんことを試みるものもなかりけり。何となれば、此時既に恐るべき咆哮漸く近つきてまのあたり惨害の悲痛を報じ來りたるを以てなり獅子は來れり、烈火の眼光鋭く幼兒を睨みながらわはや其前蹄を擧げて、一撃の下に粉齧せんとす。嗚呼無殘の光景嗚呼斷腸の光景、何とて之を救ふ者はあらざるか。

忽見る年尙少き一人の婦人、ふどろに髪を振り亂し彼方の家より跳り出でぬ、市民は等しく驚倒せ

り「アナ無殘！　オー婦人、何とて自ら慘害に身をば投ずる、今は是非なし、よしや行くとも愛兒を救ひ得ず、畢竟は共に共に死地に陥らんのみ、如かず逃れ歸りてせめて己が身をば全うせよ」併も母は奮然として彼の巨獸に立ち向ひぬ。やがて劍を並べたらんが如き彼の巨口より手早く幼兒を奪ひ取り、己が腕にしつかと抱きて急ぎ此場を逃れ去りぬ。獅子は茫然としてたゞずめり、喝采の聲は湧くが如くに起りたり。

嗚呼、母の恩愛の力には、さしもの猛獸も遂に其力を逞うし得ざりけり。

東京より (五月廿八日)

久しく音信を怠り候、多罪、平に御海願ひ上げ候、兎角筆無精の性として、自分の方に用のある時

許りつまらぬ事申し上げ、平生は頓と御無沙汰致すが、持つて生れた小生の持病に候 わしからず御了察下され度候。

▲追々夏向に相成り候へども、兎角不順勝ちにて近年稀有の冷氣を感じ候。養蠶地などは、之が爲めに少くからぬ霜害を相受け候由。次ぎに彼の恐るべき黒死病は、又々横濱に侵入し來り候由、申すまでもなく候へども此際皆様には、各自御衛生の心掛け專一に存じ候。

▲一時、八釜しかりし改良服も、暫らく影を潜め候ひしが、夏向に相なりて、又ばつく市中に散見致し候。併し一般の、改良服に對する思想は、餘程冷淡に相成り候様考へられ候。もとより、只今の改良服は、何だか何處かに調和が取れ申さず大人には少々可笑味のあるは事實に候、先づ當分

は是非なく學校向きの婦人は袴と致すより外致し方無之次第に候哉御高説承はり度候。

▲夫に付きて、思ひ出し候。學校向きの婦人方の袴を着け候に付きては、衣服の袴に隠れる部分は全く餘計のものと存じ候に付き、袴着の衣服として下は袴上は半纏の形の様なものにすれば、餘程經濟向きと存じられ候が、覺し召しは如何に候や。伺ひ上げ候。

▲井口女史歸朝せられて、女子体操學校にも教鞭を取られ居り候様、承はり及び候。是に於て女子の体育眞に發達の隆運に向ひ可申と存じ候。從來は只だ云ふ者ありて行ふ者なかりし故、必要くと申しながら、遅々として進まざりし事と存候、所謂衣服問題の如きも、之に依りて自然に解決せられ可申と存じ候。

▲御話は變り候へども、今回の内國大博覽會に付きて、最も成功せしは、全國大教育會の舉に有之候由。夫は教育會に緣故のある人は、教師といはず學生といはず、旅宿から、辨當から何から何まで一切引き受けて世話致し、殊に博覽會附近の低い見物は皆半額にて見物致させし由、中々の盡力、一通りの事にて無之との事に候。

▲過日催され候、下田歌子女史の癸卯園遊會の純利益は七千有餘圓との事に候、さすがはと感心の外無之候。

▲近來清國人の學校參觀に參らるゝ者引き切らず候、如何に中華自慢の同國人も百聞一見の譬、今日頃はさすがに我國の實際を感じせられ候事と存じ候。清國人の學校參觀は實に彼國の文化發達上唯一の方便と存じ候。

▲夫に付きても、我國人は益々慎重に慎重を加へ悠に他國の範たるに足るべき覺悟が必要に候。公德問題の聲など、近頃は又々大分下火と相成り候様なれども、こはどこまでも根本的に養成する様御互に奮發致したき事に候。

▲女學校は續々繁殖致し申候。然し女學校を以て射利の用に供せんとの考は根本から養成致し申さず候。同じく女學の雜誌や少年の雜誌を以て射利の具とする考も、頗る有害の事に候、此事に付ては、本誌に於ても論じたる所ありしが、何時ぞやの萬朝報には極めて痛快に論じ有之候。

▲都下の某新聞には、又々當世百人娘といふを掲載し始め候。或人は都會の様な所では至極便利だと評し合ひ候。或人は、女子教育上、甚だ面白からぬ所業と批難致し候。餘り年少な娘たちを持ち

揚げ賞めそやすは、結局娘たちの虚榮心を増長させる事に相成ると申す事に候。

▲報知新聞には、女學生の白粉禁止問題中々盛況に候。弦齋の小説食道樂、これは家庭の讀ものとしても、女生徒諸君の讀みものとしても、至極結構と存じ候。

▲尙次回には、何か面白き事申しのぶべく候、何分目下多忙を極め居り候間、下らぬことのみ、取り急ぎ認め候。頓首。

幼稚園の遊嬉

在來の遊嬉の書物より取りたるもあり、又は新に作りたるもあり、先般女子高師、附屬幼稚園で保育要項を定めると同時に、實施すべき遊嬉の種類も決めたのである。前々號にあつた、保

育事項實施程度表と、比較すればよく分る。

一、一列行進

衆兒を一行に并ばしめ、樂器によりて拍子を取りつ、種々の方向に導きて歩ましむ。行進漸く熟するに至らば、之を導きて圓形を形造らしめ、先頭の幼兒終尾の幼兒と接するに至りて歩を止め、圓の中心に向つて立ち互に手を連ねて圓を造らしめ左又は右に回轉せしむ。

二、雁

雁々わたれの唱歌に伴はしむる遊嬉にして、衆兒をして悉く雁に擬せしめ、兩手を左右に伸ばし、上下に動かしつ、一列に揃ふて進行せしむ。或は兩手を左右に伸ばす代りに兩掌を前に揃へて上下に運動せしむることもあり。

三、てふく

てふくくの唱歌に伴はしむる遊嬉にして、幼兒をして一人にて若くは二人づゝ組み合ひて蝶に擬せしめ、てふくくの唱歌を唱ひながら室内を随意に飛び回らしめ、唱歌の終ると共に室内自ら好む所のものに止まらしむ。

漸く此遊嬉の方法に熟するに至らば、衆兒をして圓形を造らしめて之を花木に擬し、蝶に擬したる幼兒を其内外に放ち置き、衆兒は唱歌しながら右或は左に廻り、蝶となれる者は手を振り動かしながら思ひ々々に飛び回り、唱歌の終はると共に自ら好む花木に止る、止まられたる花木は更に蝶となり蝶と入れ代はりて再び唱歌しながら遊嬉を始む。

四、雀

「おきよくねぐらの雀」の唱歌に伴はしむるも

のにして、衆兒をして眼を塞ぎ兩手にて覆ひながら一所に集まり屈し居らしむ。保母一人唱歌を唱ひ「ねぐらをいで」の句に至りたる時、衆兒は一度に起き出で、其次の句を唱ひながら自由に飛び回り歌の終はると共に各自好む所のものに止らしむ。

此方法に熟するに至りたる時は更に次の方法によりて行はしむ。衆兒をして圓形を造らしめて之を樹木に譬へ數人の幼兒をして其中に入り雀の埒に眠れる状をなさしむ。周囲の幼兒は唱歌を唱ひながら回轉し「ねぐらを出で」の句に至りたる時雀は起き出づるものにして、其方法はてふくくの時と同じくす。

五、蓮の花

圓形を造りて蓮の花に擬せしめ蓮の花の唱歌を唱

ひながら右或は左に廻り「つげんだ」の句に至りて皆縮みて中央に集まり集りし儘にて又次の句を唱ひ「開いた」の句に至りて再び元の形に復へらしむ此方法に熟するに至らば數人の幼兒をして更に圓の中に入りて小圓を作らしめ花の心となりて遊ばしむ。

最初は圓を作りたる儘にて回轉せしむることなくたい開閉のみをなさしむるも可なり。

六、風車

風車の唱歌に伴はしむるものにして種々の仕方あり。

一、幼兒をして圓形を形て作らしめ、唱歌しながら右若くは左に回轉せしめ、水車を唱ひ始むるに至りて更に反對の方向に回轉せしむ。

二、數兒をして圓の中に更に小圓を造らしめ大圓

と反對の方向に或は之と同一の方向に回轉せしむ。

三、六人の幼兒を圓中に入れ何れも兩手を伸ばし

一方の手には共に心となるべき紐を握らしめ、唱歌しながら大圓に隨つて或は大圓と反對の方向に回轉す。

七、鳩つぼ

鳩つぼの唱歌に伴ふ遊嬉とす先づ衆兒圓を作りて唱歌す數人の幼兒は鳩となりて圓外好む所に在りて飛び回はる「ぼつぼ」と飛んでこい」に至りて鳩は飛び來りて圓の中に入る「豆をやるから皆たべよ」を歌ふ時衆兒は一樣に豆を投げやる形をなす、鳩は圓中に在りて兩手にて口を造りて豆を食ふ狀をなす「食べても直に歸らずに」以下を唱ふ時に至りて鳩は圓中にて飛行し、唱歌の終は

ると共に鳩は周圍の幼兒に止り、更に遊嬉を始むること蝶々の如くにす。

八、禮の遊

衆兒圓を作り中央に一兒立ちて周圍の或兒に向ひて其名を呼ぶ、呼ばれたる幼兒は直ちに出で來り互に禮をなして其位置を取り代へて順次前の如くにす。

九、うづまき

衆兒圓を作り然る後其一端を斷ち、此端より衆兒を牽ひて渦狀に進み次第に捲きて圓の中心に達したる時は、更に反對に中心より解り始め、遂に他の一端に會して運動を止むるものとす、尙ほ此運動を續くるには他の一端より始めて前法を繰り返す

(以下次號)

相摸の子守歌

平岩繁治

六十八

大山街道飛ぶ鳥は羽が十六目が一つ一の木二の木三の木櫻五葉松柳柳の下でかいた紙をひらふて太郎さんによませませう太郎さんによよめねーを寺の小僧によませませう次郎さんにいふ事にや雁の首をちよつ切てみかんのかんでへ入れて海の島へながしたしまの子供がひたるさうに笑たひたるけりや田を作れ寒けりやあたれあつけりやひつされひつさり虫がくひついた。
一雨はふつてきたねー外まきやぬれる背中じや子がなく飯やこげるよい〜。
一今がさかりの蠶時子供はみじめでないてもかまわで母さんわ桑取りに〜よい〜。